

平成 30 年 1 月 22 日

## 平成 29 年度 医療問題特別委員会視察報告書

1. 日 程 : 平成 29 年 11 月 14 日 (火) ~15 日 (水)
2. 視 察 先 : 美濃市立美濃病院 (岐阜県美濃市)
3. 視 察 事 項 : 美濃市立美濃病院の運営について
4. 視 察 者 : 委 員 長 樋 口 浩 二 副 委 員 長 浅 野 一 明  
委 員 佐 藤 俊 夫 委 員 山 田 義 栄  
委 員 安 田 憲 喜 委 員 安 武 秀 敏  
当 局 長 谷 川 健 一 健康課課長補佐  
随 行 吉 田 和 実 議会事務局主査  

一行 8 名
5. 説 明 者 : 美濃市立美濃病院 阪 本 研 一 病 院 長

---

### 【美濃市と中濃医療圏の概要】

#### (1) 美濃市の概要

美濃市は、濃尾平野の最北端に当たり、中京経済圏の中心地名古屋市から 40km 圏、岐阜市から 20km 圏にある。

面積は、117.01 km<sup>2</sup>で東西 12.5km、南北 15.8km。80%以上が緑の山々を擁し、中央を南北に長良川が貫流し、板取川がこれに合流している。

気候は、若干内陸性を帯びているものの寒暖の差もなく、豊かな自然に恵まれた、風光明媚な地である。

人口は、平成 29 年 3 月 31 日現在の住民基本台帳人口で 20,819 人。世帯数は 7,747 である。

岐阜県には 5 つの医療圏があり、美濃市はその内の中濃医療圏に属する。

#### (2) 中濃医療圏の概要<sup>1</sup>

---

<sup>1</sup> 第 6 期岐阜県保健医療計画より

中濃医療圏は、美濃市を含む5市7町1村が区域とされており、圏域の人口は379,626人<sup>2</sup>、面積は、2,454.87km<sup>2</sup>である。

圏域内には18の病院施設があり、病床数は一般、療養、精神その他を合わせて、3,206床<sup>3</sup>、一般診療所の施設数は259である<sup>4</sup>。

中濃医療圏の人口10万人当たり医師数は138.3人で、全国平均の219.0人、岐阜県平均の189.0人を下回る。看護師の人口10万人当たり就業者数でも、中濃医療圏では515.2人であり、全国平均の744.0人、岐阜県平均の656.4人を下回る。医師数、看護師数のいずれも岐阜県内5医療圏のなかで中濃医療圏が最少となっている<sup>5</sup>。

## 【美濃市立美濃病院の概要と沿革】

### (1) 美濃市立美濃病院の概要

開設者：美濃市長

経営形態：地方公営企業法一部適用

診療科：常勤 内科、外科、小児科、整形外科、眼科

非常勤 脳神経外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、放射線科、皮膚科、泌尿器科  
リハビリテーション科

病床数：122床 急性期（DPC<sup>6</sup>病棟）×2病棟（77床）

回復期（地域包括ケア病棟）×1病棟（45床）

訪問看護ステーション「清流」併設

職員数：180名 医師数（常勤11名、非常勤27名）

### (2) 美濃市立美濃病院の沿革

昭和27年 美濃町公民健康保険直営の「美濃町公立美濃病院」として設置

昭和28年 2月21日開院 51床（一般病床31床、結核病床20床）

平成10年 病院移転新築マスタープラン作成

平成13年 新病院建設工事起工式

平成15年 6月 新病院開院 オーダリングシステム一部導入

院内に訪問看護ステーション「清流」設置 常勤医師数15名

---

<sup>2</sup> 平成24年7月1日現在

<sup>3</sup> その内、一般病床及び療養病床は2,727床

<sup>4</sup> 病院数、病床数、診療所数は、平成23年10月1日現在

<sup>5</sup> 平成22年のデータである。

<sup>6</sup> Diagnosis Procedure Combination（包括医療費支払い制度）

- 平成 16 年 新臨床研修医制度の開始 → 医師不足が表面化  
産婦人科の非常勤化（産科撤退）、内科医局総撤退（内科医 6 名全員が撤退）
- 平成 17 年 病院長交代で新体制の出発 常勤医師 11 名
- 平成 21 年 新体制 5 年目で単年度黒字化（以後、単年度黒字を継続）
- 平成 26 年 地域包括ケア病棟新設
- 平成 27 年度 全国自治体病院開設者協議会および病院協会会長による表彰  
（両協議会会長表彰）
- 平成 28 年 増改築 みの健康管理センター新設
- 平成 29 年度 総務大臣賞受賞  
（過去 5 年以上の黒字決算、累積欠損金なし、経営の健全性と地域医療への重要な役割等）

### 【美濃市立美濃病院の経営改革の特徴】

常勤医師、常勤看護師の確保は全く進んでいない中、最少のスタッフ数でいかにして無理なく理念を達成するかに取り組んだ。

- ① 地域ニーズである患者層に応じた病床群を選択
- ② 必要最小限度の病床数で対応・・・平均利用率 90%へのこだわり

### 【美濃市立美濃病院のコンセプト】

#### （1）「専門医療＋地域密着型医療」

- ①専門医療については、特化分野を持ち広域に展開する。
  - ・消化器疾患・・・みの内視鏡センター
  - ・整形疾患
  - ・糖尿病を中心とする生活習慣病・・・みの糖尿病センター
- ②地域密着型医療
  - ・全ての診療科
  - ・健康診断の一括実施・・・みの健康管理センター

#### （2）医療ネットワーク

美濃地区に岐阜大学病院を頂点とするネットワークを形成し、病診連携、病病連携を図る。

\* 美濃病院では、他病院との連絡、連携を密にすることにより、救急車の受け入れ率は98%に達しているとのことである。(ただし、小児科、産科は除くとのこと。これらの患者については、受け入れ不能な場合が前もって明らかとなるため、その場合には他の病院で受け入れることが前提となっている。)

## 【 所 感 】

美濃病院のコンセプトとして医師は、外来診療時間内は専門医療にたずさわり、時間外は地域密着型医療の全ての診療に当たっている。地域住民には、体調が悪い場合、病院に行けばいつでも診察していただけるという安心感がある。

医療ネットワークとして、岐阜大学病院を頂点とするネットワークが形成され、行政と病院の連携が図られている。少ない医療資源で少子高齢化社会の医療を支えるには効率化しかないという考えがそこにあらわれている。

地域医療の向上を目指す専門併設型地域包括ケアシステム支援病院として、着想から3年、平成26年7月増改築が事業費18億円で行われ、みの内視鏡センター、救急室、みの健康管理センター、みの健康ホール、みの在宅医療センター等の機能アップのため増床なき増改築事業を行い完成した。その結果、美濃病院は、総務省から平成29年度自治体立優良病院として総務大臣賞を受賞した。すばらしいことです。

この事業は、過去5年間以上にわたり、経常利益を計上し、累積欠損金がない病院、経営の健全性、経営努力の状況及び地域医療に果たしている役割を総合的にデータ評価されたもので、この受賞は大変価値あるもので、頭が下がります。

この視察により、自治体立病院にとって、経営とは病院、自治体（行政）、地域住民（議会）の3つの総合力によって形成されるもので、特に行政と病院の連携が必要であることを痛感した。

最後に、美濃市立美濃病院の発展をお祈り申し上げ、視察に同行していただいた諸氏に感謝申し上げます。

以上